

實戰龍の巻

十六

本圖を通常斜めの定石と稱し、斯界の大家三上雄石、和田隠石、井上將石、等の諸先生が教へたる、ものにて頗る條理を得たる名珠なり、坊間無意識に斜引の珠況を作ると雖も、其の活用を心得ざる爲め惜しくも敗るゝ事多々あり、以下掲ぐる處反玩覆味 以而先手の奥儀を充分に極むべし



第一圖
引の珠況を作ると雖も、其の活用を心得ざる爲め惜しくも敗るゝ事多々あり、以下掲ぐる處反玩覆味 以而先手の奥儀を充分に極むべし

如何に聯珠は先手必勝の如きものなりと雖も、後手苟も勝敗を争はん覺悟か。
上圖斜引の攻撃に備ふ甲、乙、丙、丁
いろは
にほへ
などは最も肝要なる禦防地点なり。百聞は一見に如かず百讀よりも一行を重ね。



第二圖
上圖斜引の攻撃に備ふ甲、乙、丙、丁
いろは
にほへ
などは最も肝要なる禦防地点なり。百聞は一見に如かず百讀よりも一行を重ね。

第二圖に於ける甲により守勢四の備を小桂馬と稱す、先手五七は定豫の珠順なり
第三圖
は順應の球順とす
先手九は必勝を期して打ちたるものなれば後手是を破るは難事中之難とす。甲乙丙丁は
へと△△を守るべし



第四圖
は三圖の備なり
追手先
て四三
いに
三活聯
十五の

